

平成21年（第3回）みどりの学術賞 選考委員会委員長コメント

平成21年（第3回）みどりの学術賞の選考にあたって、選考委員会は、「みどり」に関する学術に造詣の深い学識経験者等約270名に対し、この賞にふさわしい候補者の推薦を依頼しました。その結果、約50名の推薦が得られましたが、分子・細胞レベルで植物のメカニズムを研究している方から、地球規模で生態系の研究をしている方まで、実に多様な分野からお名前が挙がり、改めて「みどり」という言葉のもつ幅広さ、奥深さを思い知らされた次第です。

光生物学の分野で、光に反応する植物の仕組みを明らかにした和田正三博士、進化生物学の分野で、植物がその繁殖戦略によって種の多様性を生み出していることを明らかにした矢原徹一博士、今回のみどりの学術賞を受賞されるこのお二人の研究により、光と植物の関係、および、植物の多様性をもたらした進化の仕組みの一端が明らかになりました。光輝く「みどり」あふれる世界がどのように形づくられたか、そして、それをどのように維持していくべきか、今後とも「みどり」に関する学術がそれらを解き明かし、社会を動かしていく力になることを、選考委員会は心から祈念しています。

平成21年3月5日

みどりの学術賞選考委員会委員長
常脇 恒一郎